

平成28年度最高裁判所総合評価審査委員会（第3回） 議事概要

開催日及び場所	平成29年3月8日（水）最高裁判所中会議室
委員	委員長 中城康彦（明海大学不動産学部教授） 委員 浦江真人（東洋大学理工学部教授） 伊室亜希子（明治学院大学法学部教授） 吉田正紀（経理局営繕課首席技官） 馬見田政公（同 次席技官）
委員からの意見・ 質問及びそれに対する回答等	別添のとおり

(別添)

1 平成28年度(上半期)の総合評価落札方式の発注状況について

- (1) 平成28年度(上半期)の総合評価落札方式の発注状況について説明
- (2) 委員からの主な意見は以下のとおり

【委員】

設計業務について、プロポーザル方式で発注されたものの種別が「性質」となっているが、契約手続上、どのようなものか。

【事務局】

簡易公募型プロポーザル方式に基づく建設コンサルタント等の特定手続は、会計法で「契約の性質又は目的が競争を許さない場合」とされる随意契約に分類されることから、随意契約の種別を「性質」と表示している。

【委員】

了解した。

2 平成29年度総合評価落札方式及びプロポーザル方式の実施方針等について

- (1) 平成28年度(上半期)の総合評価落札方式の発注状況について説明
- (2) 委員からの主な意見は以下のとおり

【委員】

平成28年度の実施方針等で課題や問題となったことはなかったか。

【事務局】

技術提案評価型と施工能力評価型の運用により、現行の実施方針で課題となるものはなかった。

【委員】

了解した。

3 平成29年度における競争参加資格の設定について

- (1) 平成28年度(上半期)の総合評価落札方式の発注状況について説明
- (2) 委員からの主な意見は以下のとおり

【委員】

積算業務の管理技術者について、建築コスト管理士ではなく、建築積算士としている理由は何か。

【事務局】

建築コスト管理士は、建築積算士に求められる知識等に加え、コストマネジメントに関する高度な専門知識及び技術を有する資格と位置づけられているが、通常の積算業務では、そこまでの必要はないため、建築積算士の資格のみを求めている。

【委員】

了解した。

4 平成29年度の審査対象案件の抽出について

- (1) 平成29年度の審査対象案件の抽出について説明
- (2) 委員からの主な意見は以下のとおり

【委員】

解体工事について、技術提案評価型で行う場合はあるか。

【事務局】

工事難易度が高い場合やWTO対象工事は技術提案評価型になるが、通常の解体工事では、施工能力評価型となる場合が多い。

- 5 高松地家裁丸亀支部庁舎新営工事の入札結果及び経過報告について
 - (1) 高松地家裁丸亀支部庁舎新営工事の入札結果及び経過報告について説明
 - (2) 委員からの意見等はなし

- 6 その他
 - (1) 平成29年度総合評価審査委員会のスケジュールについて説明
 - (2) 委員からの意見等はなし